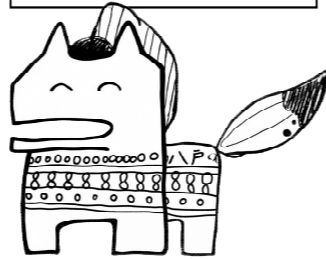


とれたて!

# すまあ〜ど!

SMILE ART



## 未来の土台となる美術館

館長さんのお話

八戸に新たな光が生まれました。人とまちを育む、新しい時代の美術館。今回は、そんな美術館を支えているひとりである館長・佐藤慎也(さとうしんや)さんにお話をうかがいました。



オープンの日に、あいさつをする館長さん

館長さんは美術館の館長をしているだけでなく、建築士としても活躍されています。壁が白い美術館が多い理由は、作った作品だけでなく、そのまわりもひとつの作品として見せるためであるなど、建築に関する豆知識も教えていただきました。元々、美術館を建てる計画に関わっていましたが、まさか自分が館長になるとは思っていなかったようで、自分でも驚いているそうです。

### 館長さんの願い

「八戸市の人たちは色々なことに対して興味をもつ人が多いです。そのような人たちが気軽に美術館に来て、いろんな人とお話ししたり、作品を制作したりする、本来の美術館とは違う美術館であってほしい。」というのが館長さんの一番の願いです。美術が好きの人でも、そうでない人でも美術館に来て、まちの延長のように自由に楽しく使える、美術館がまちそのもののようです。また、新しいものを生み出すことができる場所として、様々な見方やとらえ方を大切にしたいと考えており、アーティストだけではなく、八戸市の人たちや、他の土地から来た一般の人たちも活躍できるようなプロジェクトを考えているそうです。そして何よりも、どんな人でも一度は美術館に来てもらい、それから何度もこの美術館を使ってほしいそうです。

館長さんがおっしゃっていたように、八戸市美術館は他では経験することができない、たくさんの魅力を持った美術館です。まだ行ったことがない方はぜひ行ってみましょう!

八戸市美術館コレクション展  
「持続するモノガタリ ― 語る・繋がる・育む」  
2022年3月19日(土)~6月6日(月)



館長さんに取材中です

## 見るだけじゃないよ!美術館

八戸市美術館は、建物が古くなったことなどが原因で、長い間お休みしていました。しかし、令和3年11月3日、「100年後の八戸を創造する美術館」を目標に、新しい建物とともに再びオープンしました。新しい八戸市美術館には、珍しい部屋がたくさんあります。そのひとつが、入口を入ってすぐの『ジャイアントルーム』です。

大きな棚は動かすことができ、部屋の配置を自由に変えることで、さまざまな美術のイベントを行うことができます。そしてなんと、ジャイアントルームは誰でも無料で入ることができ、友達と語り合ったり勉強をしたり、インターネットで調べものをしたり(Free Wi-Fiあり)、美術やこれからの八戸について考えることができるという場所になっています。八戸市美術館は、見て楽しむだけでなく、市民が活動をして楽しむ美術館といえます。



友達とすごそう!

大きな棚が動くよ!

ジャイアントルーム

## 加藤さんが美術館のロゴに込めた思い



デザイナーの加藤賢策さん

今回は、八戸市美術館のロゴマークを制作した加藤賢策(かとうけんさく)さんにオンラインでインタビューをしました。まず、みなさんはこのロゴを見て、何を思い浮かべるでしょうか?シンプルなデザインで、上のほうが空白になっていますね。実はこの空白に意味があるのです。まずこの黒いお皿のようなものは『土台』をイメージしてデザインしたそうです。

それではこれが土台なら、上には何を置くのでしょうか?加藤さんは「八戸市美術館の大きな特徴であるジャイアントルームのように、キャパシティ(容量)の大きさを表し、八戸市の未来の土台になる」とおっしゃっていました。

ロゴの制作期間は約3か月だそうです。見せてもらったロゴの案は数えきれないほどありましたが、最終的にはこのデザイン“だけ”を美術館に提案したとおっしゃっていました。加藤さん自身もこのロゴがいちばんのお気に入りだそうです。

最後に、この美術館がこれからどうなってほしいか聞きました。加藤さんは、「気が引きしまりつつ、でも気軽に訪れることができる場所になってほしい。そして未来を見据えてくれるワクワクするような存在になってほしい。」と語ってくださいました。ロゴを考えた加藤さんの思いを知ると、よりいっそう美術館のことが好きになるのではないのでしょうか。



# はじめまして、「すまうまくん」です！

## ～美術館新聞部 公式キャラクター作成～

「親しみのもてる新聞になるようキャラクターを作ろう！」  
 ということで、新聞部のメンバーみんなでキャラクターを作りました。すまうまくんは、美術と、八戸と、新聞を読んでもくれるみんなのことが大好きです。これからよろしくね！



たまに  
スマイルじゃない  
時も!?



(おまけ)  
こんなアイデアもあったよ！

名前：すまうまくん

《性格》  
いつもスマイル  
元気いっぱい！

漢字で書くと  
「笑顔馬君」



《特徴》  
しっぽが絵筆

モデルは八戸の  
やわたうま  
「八幡馬」

## 古いものを新しいものへ ～江頭 誠 さんのお話～



江頭さんの作品『おやすみのあと』

八戸市美術館開館記念『ギフト、ギフト、』の展示の一つに、江頭誠（えがしらまこと）さんの作品《おやすみのあと》があります。今回、江頭さんに作品についてお話をうかがうことができました。

江頭さんの制作する立体作品は、いろいろなものをピンクの花柄の毛布でくるんでいるのが特徴です。今回の作品は八戸にちなんで、三社大祭の山車に使われた彫刻を毛布でくるんでいます。

江頭さんが花柄毛布を作品に取り入れるようになったきっかけは、家で使っていた花柄の毛布を、友人に「ダサイ」と言われたことだそうです。ここから江頭さんの花柄の毛布を使った作品がたくさん生み出されてきました。今回、この作品に使用された花柄の毛布は、八戸市民の方々からいただいたものを使用したそうです。江頭さんは、誰かのいらなくなったものに魅力を感じるようで、毛布から花を切り取り、綿を詰めてクッションにすることで「新しいものに再生させる」といった意味が込められているそうです。

また、置かれている彫刻の龍がばらばらになっていたり、作品をよく見ると雲のパーツが岩に見立てられたりしています。これは、龍や雲といった本来の形として見るのではなく「何かの物体」として、ものを置くということを江頭さんは考えているそうです。

実際に作品への思いを聞いてみると、ひとあじ違った不思議な気持ちで展示を見ることができました。



作品について熱く語る江頭さん（奥）

## 令和3年度「とれたて！すまあ〜と」第1号 美術館新聞部 メンバー紹介と一言

### 江南小学校

宮内 夏帆(6年)：自分のかいたキャラクターが採用されて、とてもうれしかったです。

長沢 莉子(6年)：初めての体験だったけれど、高校生のお兄さんお姉さんがやさしくしてくれて、楽しかったです。

松本 夢叶(6年)：私は今回初めて取材をして、大変さや楽しさを知りました。小学校生活の最後にとってもよい経験ができました。

### 八戸工業高校 美術部

相馬 春花(3年)：たくさんの人に協力していただいて、素敵な新聞ができました。ありがとうございました。

長谷川 和葵(3年)：最初はとても不安だったけど、みんなと新聞を作ることができて楽しかったです。

越田 望永(2年)：魅力がたまった新聞になりました。ぜひたくさん読んで美術館マスターになってください！

館花 アンドラ(1年)：たくさんの方がこの新聞を読んで、美術館に来ていただければと思います。

### 新聞『とれたて！すまあ〜と』 名前の由来

【とれたて！】…アートファーム(美術の畑)といわれる八戸市美術館で収穫された情報を、この新聞で伝えます。

【すまあ〜と】…SMILE&ART(笑顔&美術)の略で、読者が笑顔になる新聞を目指します。また、忙しい現代人のために、美術館や八戸の魅力スマートに伝えていきたいです。



新聞部メンバーみんなで名づけました

